

拓殖大学 VS 産業能率大学

10月11日(土)
11:30K.O.
産能大 G

後期負けなしで2試合連続逆転勝利の拓大と、後期開幕から4連敗中の産能大との対戦。産能大は前節の試合が延期となっており、心機一転で臨みたいところ。

拓大は前節、前期完敗を喫している東学大に対し、4-1と快勝した。15分に先制点を許したものの、後半開始早々に同点とした後、退場者を出した相手を攻め立てて得点を重ねた。前半は、「相手のボール回しが早く、早めに引き過ぎてしまった。運動量を上げて、前からプレッシャーをかけなければいけなかった」(玉井朗監督)と反省しつつも、記録上は1本しかシュートを許しておらず、後半の逆襲につながると言える。GK佐川亮介(3年)の好守も光った。4得点中3点がセットプレーではあったが、前半攻め切れなかった相手の高いDFラインを、後半はテンポの早いパスで攻略。これで2試合連続逆転勝利を飾り、昇格圏をとらえつつある。今節を確実に乗り切り、上位との対戦を迎えたい。

一方の産能大は前節、青学大戦が延期となった。その前の試合では法大に0-2で敗れており、後期は全敗でまだ勝点を獲得していない。しかし、後期の4試合で内容は徐々にではあるが上向いてきている。そんな中での試合延期は、流れを切られたと感じてしまうのか、もし

くは気分転換ととらえることができるのか。法大戦後、「今は辛抱の時」と話した加藤望監督。今節から8日間で3試合を戦うことになり、さらなる試練を与えられたとも言えるが、一気に降格圏を脱するチャンスと考えることもできる。好調・拓大の攻撃力を抑え、反撃の機会を見出すことができるか。

<3回警告>三浦勇人・多田和明(拓大)、楠元秀真・見留耀太・須永亨(産能大)
<前期の対戦>拓大1-0産能大

拓大	産能大
13. 新山	15. 杉崎
7. 大森	11. 青木
6. 紙谷	11. 西岡
10. 柴田	19. 石渡
1. 佐川	8. 浜下
	10. 見留
	26. 桜井
	1. 森谷
19. 森川	32. 木下
3. 三浦	18. 河野
4. 小針	4. 楠元
16. 高橋	17. 岡村
	6. 遠藤

関東学院大学 VS 東京農業大学

10月11日(土)
13:50K.O.
産能大 G

暫定ではあるが再び首位に立った関学大と、3連敗と不調に苦しんでいる東農大との対戦。東農大は3試合で8失点と、守備面の改善が急務だが、首位チームの攻撃をどこまで抑えられるか。

後期初の敗戦のあと、1分1勝と盛り返しつつある関学大。前節は、日大と対戦して1-0で勝ち切った。「どんな形でも勝点3を取ろうと言っていた。現状でできる最低限のことはできた」(石村大監督)。ここ3試合で2得点と、得点力は好調時に比べれば停滞気味ではあるが、第14節での敗戦のように先制点を許さず、状況に合わせた試合運びができてきている。日大戦でも、優勢に試合を進めながらも前半は得点に結びつけることができなかったが、焦れずに攻め続けたことが勝利につながった。上位と戦う後半戦への課題は、「得点のチャンスをしぶと結果に結びつける力をつけなければいけない」(石村監督)ということだ。

一方の東農大は、後期に入って2引き分けの後3連敗と苦しい戦いが続いている。前節は法大に0-3で敗れ、2試合連続で0-3の敗戦と、攻守ともに精彩を欠いている。法大戦では守備の改善のためDFの枚数を増やして臨んだが、「シュートを打たれてもコースを切っ

たり、プラン通りの守備がある程度できていたが、前半終了間際の失点が痛かった」(秋吉保浩監督)。後半も、高さでは引けを取らないはずの東農大がセットプレーから2失点し、反撃の糸口をつかめなかった。今節は、法大戦の守備戦略の精度をどこまで上げられるか。「ここが踏ん張りどころ。しっかり戦いたい」(秋吉監督)。

<3回警告>小田原貴・金裕志・加藤聖哉・村山翔・佐々木翼(東農大)
<前期の対戦>関学大2-1東農大

関学大	東農大
2. 吉田	17. 徳田
8. 普光院	8. 佐々木
3. 原島	18. 萱沼
	20. 加藤
7. 太田	10. 浜田
33. 村田	14. 石川
	5. 櫻岡
	21. 松尾
19. 山口	25. 金
22. 井上	2. 中西
11. 中村	9. 相川
16. 木村	3. 加藤

予想布陣は直近の試合を参考に作成しています

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.17

編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



4試合が延期、15日に開催

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは第 16 節、2 日目の 4 試合が台風の影響により延期となった。延期分は 15 日に同会場(青学大 G)において開催されることとなったため、現時点では暫定の順位となっている。首位に返り咲いた神大と、勢いが出てきた東洋大との対戦が注目されたが、今節のあとに改めて仕切り直しとなる。

一方、1 日目に行われた 8 試合ではすべて上位チームが勝利を収めた。まず関学大は日大に 1-0 で勝利。拓大は東学大に 4-1、法大は東農大に 3-0 と大勝、日体大も平国大に 3-1 で快勝した。

得点ランキング		アシストラランキング	
9: 星子 直哉 (平国大)	8: 大森 勇希 (拓大)	8: 大森 勇希 (拓大)	8: 伊東 純也 (神大)
8: 萱沼 優聖 (関学大)	6: 伊東 純也 (神大)	6: 伊東 純也 (神大)	仙頭 啓矢 (東洋大)
8: 遊馬 将也 (東洋大)	5: 萱沼 優聖 (関学大)	5: 萱沼 優聖 (関学大)	木村 魁人 (")
7: 富樫 敬真 (関学大)	4: 中野 春樹 (日大)	4: 中野 春樹 (日大)	恵 龍太郎 (青学大)
7: 富樫 敬真 (関学大)	4: 成瀬 琢斗 (")	4: 成瀬 琢斗 (")	小林 玲櫻 (日大)
6: 全 2 名			

後期も折り返し点に差し掛かったが、試合が延期となった4チームにとっては連戦となる日程も一つの鍵。終盤戦に向け、弾みをつけるのはどのチームか。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 16 節暫定。上段が前期の対戦結果。勝点の白抜きは 1 試合少ないもの)

順位	2部	関学大	神大	拓大	法大	東洋大	青学大	日体大	日大	東学大	東農大	平国大	産能大	勝数	負数	分数	得点	失点	得失	勝点
1	関学大	3 0 2 11/15	2 0 0	2 0 1	1 0 2	1 0 4	2 0 2	4 0 2	3 0 0	2 0 1	5 0 0	3 0 0	3 0 0	10	3	3	33	19	14	33
2	神大	2 0 3 日体大 G	4 0 0	3 0 1	0 0 1	2 0 2	0 0 1	1 0 0	3 0 1	3 0 0	5 0 3	4 0 0	1 0 0	9	3	3	33	16	17	30
3	拓大	0 0 2 古河	0 0 4 横須賀	0 0 3 10/19	2 0 0	3 0 3	2 0 0	2 0 0	0 0 3	1 0 0	5 0 0	1 0 0	1 0 0	9	4	3	25	18	7	30
4	法大	1 0 2 横須賀	1 0 3 法大 G	3 0 0 味スタ西	2 0 0	2 0 2	0 0 0	4 0 4	2 0 0	1 0 0	0 0 0	2 0 2	2 0 0	8	3	5	31	18	13	29
5	東洋大	2 0 1 0 0 2	1 0 0 青学大 G	0 0 2 法大 G	0 0 2 3 0 2	1 0 1 11/9	1 0 2 3 0 1	0 0 1 10/11	0 0 1 11/15	1 0 0 3 0 0	3 0 2 10/25	4 0 0 10/18	8	6	1	22	17	5	25	
6	青学大	4 0 1 産能大 G	2 0 2 青学大 G	3 0 3 産能大 G	2 0 2 1 0 3	1 0 1 夢の島	2 0 0	2 0 1 10/11	0 0 2 1 0 3	3 0 0 10/25	1 0 1 1 0 0	0 0 1 10/15	6	4	5	25	21	4	23	
7	日体大	2 0 2 江戸陸	0 0 0 保土ヶ谷	0 0 2 日体大 G	0 0 0	2 0 1 1 0 3	0 0 2 日体大 G	0 0 0	0 0 0	1 0 0	1 0 1	4 0 1	6	5	5	19	19	0	23	
8	日大	2 0 4 0 0 1	0 0 1 2 0 3	0 0 2 0 0 0	4 0 4 平国大 G	1 0 0 東洋大 G	1 0 2 3 0 1	0 0 0 江戸陸	2 0 0	1 0 1	1 0 2	3 0 0	5	7	4	22	22	0	19	
9	東学大	0 0 3 1 0 1	1 0 3 日体大 G	3 0 0 1 0 4	0 0 2 1 0 3	1 0 0 東学大 G	2 0 0 早大 G	0 0 1 2 0 0	0 0 2 1 0 3	0 0 1 10/18	3 0 2 11/1	1 0 1 11/8	5	9	2	17	26	-9	17	
10	東農大	1 0 2 産能大 G	0 0 3 1 0 1	0 0 1 1 0 1	0 0 1 0 0 3	0 0 1 0 0 3	1 0 2 日体大 G	1 0 1 東学大 G	1 0 0 千葉東総	1 0 0 11/9	5 0 0 10/25	3	9	4	13	23	-10	13		
11	平国大	0 0 5 1 0 0	3 0 5 2 0 1	0 0 5 0 0 2	0 0 0 東洋大 G	2 0 3 平国大 G	1 0 1 0 0 1	1 0 2 川口	2 0 0 日体大 G	2 0 3 たつのこ	0 0 1 11/15	4 0 6 11/15	3	11	2	19	38	-19	11	
12	産能大	3 0 3 0 0 1	0 0 4 0 0 1	0 0 1 産能大 G	2 0 2 0 0 2	0 0 4 青学大 G	1 0 0 青学大 G	1 0 4 1 0 2	0 0 3 産能大 G	1 0 1 たつのこ	0 0 5 東国大 G	6 0 4 産能大 G	2	10	3	15	37	-22	9	

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

成功も失敗も、自分が決める。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会



RECRUIT

青山学院大学 vs 日本体育大学

10月11日(土)
11:30K.O.
日体大 G

前節の試合が延期された青学大と、連敗を2で止めた日体大。青学大が1試合少ないが勝点で並んでおり、勝利して上位への足掛かりをつかむのはどちらか。

青学大は前節、前期は敗れている産能大との試合が延期となった。後期開幕から2連敗を喫してしまった後、2連勝で調子が上向きつつあっただけに、延期は残念だっただろう。この良い流れを途切らせることなく臨めるかが、今節の鍵を握る。その前の平国大戦は、1-0という粘り勝ちであった。粘りという意味では定評のある平国大を相手に、90分間緊張感と運動量を落とすことなく戦えたのが勝因だったと言える。前期に比べ、後期は得点が少なく苦労している感があるが、福永泰コーチが「シュートを打つ意識、シュートを打てるゾーンを広げなければいけない」と課題を与えており、今節の試合にどう出るか。逆に、ここ2試合は守備面の意識改革が功を奏して失点が減っている。3連勝なるか。

対する日体大は前節、平国大に3-1と逆転勝利。2連敗を喫していただけに、「負けられない試合だった。球際の戦いやポジショニングがしっかりできていた」と、倉又寿雄監督もホッとした様子だった。22分にワンチャンスを得点につなげられ過去の嫌なパターンが頭

をかすめたが、前半のうちに同点とし、後半開始早々に勝ち越し勢に乗った。高い位置で起用されたMF輪笠祐士(1年)が期待に応え得点に絡んだほか、DF広瀬健太(4年)の戦列復帰も大きい。昇格圏追撃の可能性は残した。「我々より上にいる青学大を破らなければ上にいけない。今日のような試合をしたい」(倉又監督)。
<3回警告>山田武典(青学大)、藤井貴之・ンドカポニフェイス(日体大)

<前期の対戦>青学大2-0日体大

青学大	日体大
6. 服部	6. 赤平
7. 荒木	26. 福田
3. 御牧	20. 高野
18. 山田	13. 増谷
1. 高橋	14. 藤井
8. 伊藤	25. 輪笠
4. 後藤	1. 伊藤
29. 上村	23. 小泉
13. 澤井	3. 広瀬
10. 関谷	10. 阿部
2. 堤	2. 高野

東洋大学 vs 日本大学

10月11日(土)
11:30K.O.
東洋大 G

後期3勝1敗で、前節は延期となった東洋大と、後期初の連敗を喫してしまった日大との対戦。今季開幕戦で敗れた東洋大が雪辱を果たすことができるか。

その東洋大は前節、2試合連続3得点での2連勝中という絶好のタイミングで首位・神大戦を迎えるところだったが、延期となってしまった。この延期を最も恨んでいるチームと言えるだろうが、後期は勝利した試合はすべて3得点と好調であることは確か。流れを切らさず、今節に臨みたい。どちらかといえば前半は慎重な試合運びから後半に勝負をかけるパターンが多かった東洋大だが、昇格圏との差が開き始めたところで戦い方の転換を図り、法大戦、東農大戦では先制攻撃を仕掛けたことが功を奏した。今節から8日間で3試合を戦うことになり、昇格争いに参戦できるかどうかの大きなターニングポイントとなる。その3連戦の最初、今節の日大戦は、前期の雪辱も込めて負けられない試合だ。

一方の日大は前節、関学大に0-1で敗れた。緊迫した接戦で好ゲームではあったが、川津博一監督が「相手は0-0でも慌てない試合運びをしていた」と話したように、内容的には完敗。その前の試合で開始早々に失点したため、前半の戦い方は修正して無失点に抑えたもの

の、後半はサイドから崩され失点を喫した。連勝スタートだった後期だが、ここ3試合は1分2敗とややペースダウン。「上位に勝てなかったということで、力不足を痛感した。東洋大戦も我慢する90分になると思う」(川津監督)。上位との対戦はあと2つ。我慢して勝利をもの取り、もう一度上位浮上のチャンスを見出したい。

<3回警告>小山大貴・遊馬将也・仙頭啓矢(東洋大)、成瀬琢斗(日大)

<前期の対戦>東洋大0-1日大

東洋大	日大
3. 筑井	16. 榊原
10. 平石	14. 成瀬
12. 瀧澤	3. 奥村
25. 徳市	19. 高山
22. 伊藤	9. 宇都宮
20. 仙頭	7. 廣田
18. 遊馬	21. 小淵
7. 斉藤	10. 小林
4. 郡司	2. 長谷川
8. 小島	6. 中村
16. 石坂	29. 高田

神奈川大学 vs 東京学芸大学

10月11日(土)
13:50K.O.
日体大 G

再び首位に立ったものの、前節の試合は延期となってしまった神大と、退場者を出し今季最多失点で敗れてしまった東学大との対戦。1週のブランクが空いた神大に対し、東学大は守備を改善して臨めるか。

神大は前節、同勝点ながら得失点差で関学大を上回り首位の座を奪い返した状況で、好調・東洋大の挑戦を受けることになっていたが、延期となった。スタートは1敗1分と出遅れた後期、ここ2試合で2連勝と調子が上向いてきたところでの延期は残念な面もあるだろうが、今節から中3日で東洋大戦が控えているだけに、この試合は非常に重要だ。下位に甘んじているとはいえ、東学大も決して侮れない。攻撃面では第15節の日大戦で後期初の複数得点となる3得点を記録したが、東学大のコンパクトな守備の前でどのようにスペースを見つけれられるか。「もうちょっと、連動した早い動きが出てくればと期待している」(松永道敬総監督)。

対する東学大は前節、拓大と対戦して1-4で敗れてしまった。15分に先制点を奪ったものの、後半開始早々の49分に同点弾を許し、53分に退場者を出したところから崩れ始め、最終的に4失点を喫した。「前半は良かった。アンラッキーもあったが、10人になっても

もう少し踏ん張ればよかった」(檜山康監督)。DFラインを浅く保ち、拓大攻撃陣を次々とオフサイドにかけて、狙いとしていた守備は十分見せていたが、後半は4点中3点をセットプレーから許してしまった。今節も得点力のある神大が相手に、特に縦に早い攻撃には要注意。コンパクトな守備で90分をしのぎ切れるか。

<出場停止>永井雄介(東学大) / <3回警告>長野祐太・鈴木翔大(神大)、富澤右京(東学大)

<前期の対戦>神大3-1東学大

神大	東学大
3. 高木	5. 廣木
11. 星	18. 久保
4. 藤原	9. 山田
16. 武田	4. 脇本
1. 阿部	7. 平田
10. 伊東	1. 須賀
24. 鈴木	15. 木下
6. 前田	11. 五十嵐
29. 南	33. 久司
32. 岡田	16. 富澤
7. 長野	2. 吉田

法政大学 vs 平成国際大学

10月11日(土)
13:50K.O.
東洋大 G

後期は4勝1敗、5試合で13得点と好調の法大と、連敗で後期も黒星が先行してしまった平国大との対戦。前期はスコアレスドローだったこの対戦、決着をつけるのはどちらか。

法大は前節、東農大に3-0で快勝した。東洋大に後期初黒星を喫したが、その後は2-0、3-0と失点もなく好調をキープしている。東農大戦は、相手が守備重視の布陣を敷いてきたことから前半はやや攻めあぐねたものの、終了間際の45分に先制点をゲット。後半は後半は、セットプレーから2点を追加して危なげなく勝利を手にした。「相手が引いてきた中でも、チームとしてはいろいろな形で得点できたことが良かった」(長山一也監督)。ただし、「後ろからのビルドアップの質はあまり高くなかった」(長山監督)と課題も。一方、守備ではその前の試合に続きGK富澤雅也(3年)が好守で流れをつくった。昇格圏への浮上なるか。

対する平国大は前節、日体大と対戦して1-3で敗れた。後期、首位チームを破ったがそれ以外の試合で結果を出せず、後期初の連敗。嫌な流れを止めたいところだ。日体大戦は、22分に前線の選手のコンビネーションで先制点を奪ったものの、前半終了間際にPKを与

えて同点とされたのが痛かった。「攻める姿勢を持って戦うことはできている。苦しい時こそ、もっと選手同士がピッチ内でコミュニケーションを図らなければいけない」(西川誠太監督)。今節は現時点で最も安定感がある法大が相手だが、いつも通り粘りの守備を見せながら、反撃の機会を狙うことができるか。

<出場停止>永戸勝也(法大) / <3回警告>相馬将夏・青島拓馬(法大)、尾林一樹・千葉真史(平国大)

<前期の対戦>法大0-0平国大

法大	平国大
13. 藤本	25. 玉田
14. 白石	5. 小松崎
22. 田代	19. 増田
5. 山口	22. 横瀬
21. 富澤	9. 星子
9. 相馬	6. 鎌田
18. 鈴木	21. 馬屋原
29. 黒柳	17. 押山
3. 宗近	20. 村川
8. 三田	2. 増田
6. 星	10. 堀越